



ナンテンのほんのきもち



あおきとしえ





ナンテンのほんのきもち



あおきとしえ





すいぶん むかしの はなしです。
やまの ふもとの あるむらで
おじいさんと おばあさんが なかよく
くらしていました。

いえの そばには かわが ながれていて
その かわには とても あたたかい ゆが
わきでていました。



おじいさんは やましごとの かえりに
ここに よって やすむのが すきでした。
つかれた あしを その あたたかい かわに いれて
ひといきつくのが すきでした。



あるひ いつものように かわで
やすもうと きてみると いっぴきの
いぬが きもちよさそうに かわで
やすんでいました。

おじいさんは やさしく こえを かけると いぬは ヒョイと
かおを あげて いいました。

「おじいさん いっしょに やすみましょう。」

おじいさんは いぬの よこに すわり あしを かわに いれて
いぬと なかよく あたたまりました。





しばらくして おじいさんは いぬに いいました。
「いぬさん うちに こないかね。」
それを きいた いぬは とても よろこび
「ありがとうございます。」といい ついていきました。



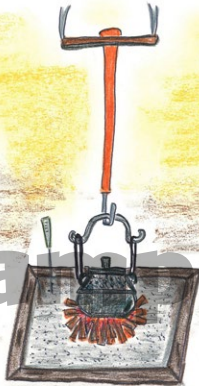
sample

おじいさんが いぬを つれて いえに かえると
おばあさんは やさしく むかえてくれました。

そして いぬは おじいさんと おばあさんと
いっしょに くらすことになりました。

つぎのひから おじいさんが やまへ いくとき ついていき
かえりは かわで ひとやすみ。

いえに いるときは おばあさんに よりそい あまえました。



あるひ おじいさんは いいました。

「いつまでも いぬさんと よぶのはなあ・・・

ナンテンと よんでいいかね。」

いぬは しっぽを パタパタふって

「はい うれしいです。」と いいました。

そして おじいさんと おばあさんの そばへ いき

おなかを だして あまえました。

ナンテンは まいにちが しあわせだと

おもえる ひびをすごしました。





うらにわは ナンテンの おきにいりの ばしょでした。
おじいさんも おばあさんも えんがわに すわり おちゃを
のみながら にわを ながめて すごすのが すきでした。

あるひ おばあさんが なにやら にわに あなが
ほられているのを を見つけました。
「あれま あ なんだろうねえ。」おばあさんは にわに でてみました。
「きっと ナンテンが ほって あそんでたんだね。
このままにして おきましょう。」

そのご まいにち あなは おおきくなって いました。





おばあさんは ナンテンに きいてみました。
「ねえ ナンテン にわに おおきな あなを ほって
どうしたんだい？」

ナンテンは まってましたと いわんばかりに
ニコッと わらって こたえました。

「じつは・・・ うらにわで ねていると
あの あたたかい かわの においが したんです。
それで その においのする ところを
ほってみたんです。すると そこから みずが
でてきて あの かわと おなじくらい ほんわかと
あたたかいんです。」

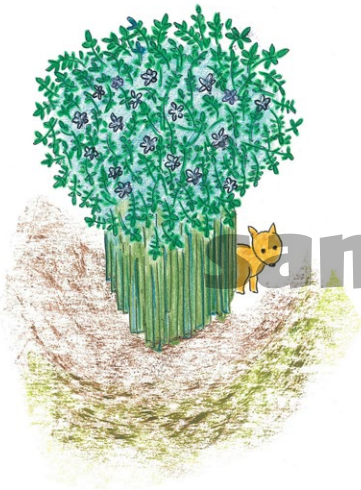
ナンテンは しんけんな かおをして はなしました。

それを きいた おじいさんは「それは すごいなあ
にわに あたたかい みずが あったら いつでも
きもちよく のんびり できるなあ。よし！ わしも
てつだうよ。」と いいました。

つぎのひから おじいさんと ナンテンは せっせと
にわで あなほりをしました。

sample





あるひ おばあさんは ナンテンに いいました。

「おまえが くる すいぶんまえに にわにある
なんてんのきの かげから こいぬが
あらわれてねえ よく なついてくれて
かうことに したんだよ。

おまえと おなじ ナンテンと なまえを
つけてね。

いいこ だったのに しんで しまったの。
その こいぬは なんてんのきのしたで
ねむっているんだよ。

おまえは いつまでも げんきで いておくれ
おまえが きてから まいにち ころろが
なごむよ。」

おばあさんは ナンテンの あたまを
なでました。



sample

ナンテンは おばあさんを みつめ
「きっと その こいぬは しあわせでしたよ。」と
いいました。



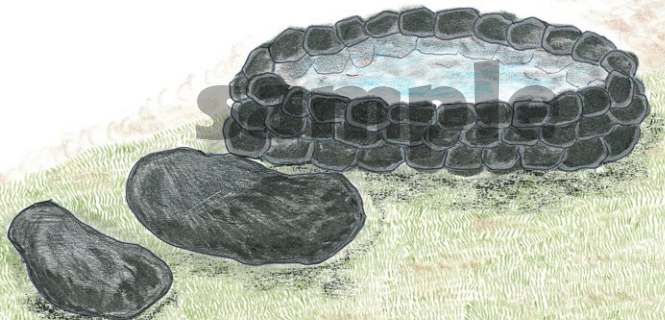
おじいさんと ナンテンは なんにちも なんにちも
あなを ほり とうとう たくさんの おゆが あなから
でるようになりました。
あなの まわりに いしを つんで おふろが
できあがりました。

sample

「いいふろだね～ ありがとう ナンテン。」

「いいえ とんでもない。いっしょに つくった おふろです。

りっぱに できて うれしいです。」



ナンテンは そういうと にわの なんてんのきの
そばに すわり おじいさんと おばあさんを みつめました。
「ナンテン もしや おまえは あの こいぬ なのかい」と
おじいさんは いいました。
「はい わたしです。あの こいぬの ナンテンです。」
ナンテンは ちいさく しっぽを ふりました。
「ああ ナンテン。こっちへ おいで。」
おじいさんと おばあさんは
てを ひろげて いいました。



「いいえ もう いかなくては いけません。
わたしは かみさまに おねがいをして
おんがえしを するために もどって きたのです。
とても かわいがって もらったのに
わたしは なにも してあげられませんでした。
これで こころおきなく ねむれます。
わたしの ほんのきもちです。」

sample







ナンテンは ほほえみながら
「おじいさん おばあさん わたしは とても しあわせでした。
どうもありがとうございました。」
そういうと キラキラと かがやきながら きえていきました。

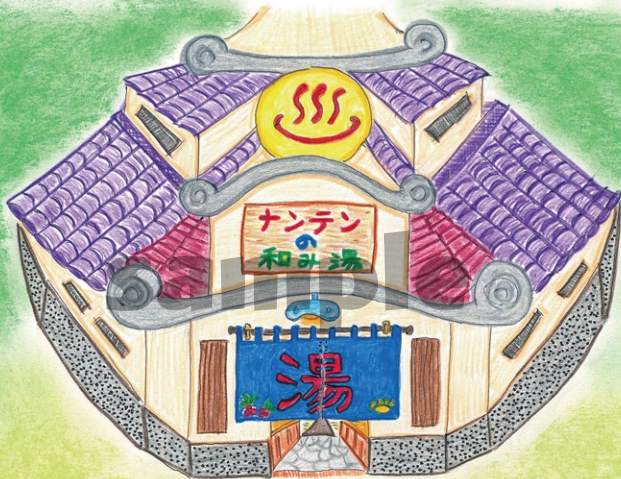


おじいさんと おばあさんは ナンテンの おもいでを
かたりあい いつまでも わすれることは ありませんでした。

そうして この おふろを「ナンテンの^{なご}和^ゆみ湯」と なづけました。

そこで なんねんもの ねんげつが ながれ「ナンテンの^{なご}和^ゆみ湯」は たくさんの ひとを
いやす おんせんに になりました。

おわり



いしだえほん No.0050

ナンテンのほんのきもち

2018年6月11日 初版発行

文・絵 あおきとしえ

印刷・製本・発行 石田製本株式会社

〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31

TEL 011-676-4520

<http://i-bb.co.jp/>

©2018 Toshie Aoki / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁はお取り替えいたしますので、弊社までご連絡ください。

ISBN978-4-909377-49-4

石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、
シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が続々発売中です！
<http://p-books.jp/ehon/>

ISBN978-4-909377-49-4
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円＋税



9784909377494



1928771012000

sample